

第17回 雪のラブレター募集(入賞作品)

【恋文の部】

賞	最優秀賞
作品	南国出身の友人が、尾花沢の雪が見たいというので、連れて帰った。驚く友に、「雪多いがら、米も西瓜も美味いんだ。んださげ、雪さ、まげでらんねのよ」と言って笑った。帰りの車窓から望む雪景色がじわっと滲む。一人にしててごめんな、おふくる。
作者	ヒロパンダ
住所	埼玉県
講評	審査を担当する際、私が最も大切にしているのは、その恋文がどれだけ心に響いてくるかです。私自身、高齢の母を山形に残してしているので、この作品は他人事ではなく、読んでいて涙が出ました。綺麗な言葉や詩的な表現は必要ありません。その人にしか書けない、正直な思いを評価したいと思います。「雪さ、まげでらんねのよ」と言うお母さんの声や手、その暮らしぶりまで目に浮かぶようです。どうか、親孝行してあげてください。

賞	優秀賞
作品	角スコで 立方体で 掬う雪 武骨な彼の 引力そのもの
作者	六花紫
住所	東京都
講評	「角スコ」「立方体」「無骨」「引力」と、およそ雪からは連想できない言葉の選び方に驚くとともに感心しました。「立方体で掬う雪」という表現、確かにわかります！ 着眼点が素晴らしいと思います。大賞にしようかどうか非常に悩みましたが、「引力そのもの」という表現が他に無かったのかなとも感じ、優秀賞に選ぶことにしました。
作品	本当に好きな人ではなかったと嘯く唇にひとひらの雪
作者	昔乙女
住所	兵庫県
講評	個人的に、大好きな作品です。「好き、好き、ハート♪」とストレートに語る甘い作品より、こういうちょっとビターな味わいが大人を感じさせます。言葉の響きも美しく、何度も声に出して読んでしまいました。ただ、これは短歌の賞ではないので、もっと文字数を使って、この情景を具体的に描いてくれてもいいのにといい気持ちも……。そこがちょっと残念です。

第17回 雪のラブレター募集(入賞作品)

【恋文の部】

賞	佳作
作品	見慣れぬ名前のハガキが届く。欠礼状。毎年母が年賀状をいただいておりますが、これよりは失礼いたします。娘さんの律儀な字体は彼女譲りか。淡き想いを賀状に忍ばせ40年。印刷された彼女の名前をそっと撫でる。窓の外に初雪が舞っていた。
作者	川合 進
住所	宮城県
講評	言葉の選び方が適切で、一つのシチュエーションを過不足なく描いていて感心しました。「亡くなった」「喪中」などの言葉を一切使わず、無駄をそぎ落としたストイックな文の中ににじみ出る切なさ、哀しさ……。本当に美しいラブレターだと思います。
作品	ただいまと 赤いほっぺの 我が娘 はいおみやげと 手の平に雪
作者	佐々木 美知子
住所	埼玉県
講評	なんの銜もない、素直で微笑ましい作品です。月並みな表現ですが、読んでいて心が温かくなりました。こんな子に、こんな風に雪をお土産にもらったら、たまらないですね！
作品	ボールと一緒に泥を蹴る 雪解け間近の校庭で あいまいなルール 勝ち負けのないゲーム男子って子どもだよねと笑いながら 最後まで見る
作者	加藤 藍子
住所	愛知県
講評	情景が本当に目に浮かびます。「男子って子供だよね」という言葉の選び方にセンスを感じました。この、“余裕たっぷり”な彼女が、結局「最後まで見る」ところが可愛い！ こちらも素晴らしい作品です。

岡崎 由紀子氏 (脚本家、山形市出身)

審査員:

日本脚本家連盟理事、日本放送作家協会所属。「アイ・ラブ・ユー」(映画)「警視庁捜査一課9係」「出入禁止(デキン)の女～事件記者 クロガネ～」「TEAM～警視庁特別犯罪捜査本部」「女刑事みずき」「捜査線上のエリア」「白と黒」「水戸黄門」「かりゆし先生ちばる!」「おかしな刑事」などを担当。

応募作品数 : 1234作品